

■ 特集

04年度の尾州産地業績、利益26億円に

全体の収益は改善の兆しへ

リサーチセンター調査

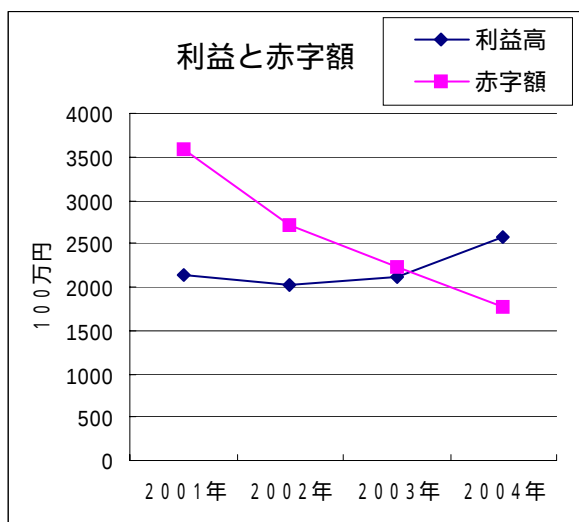
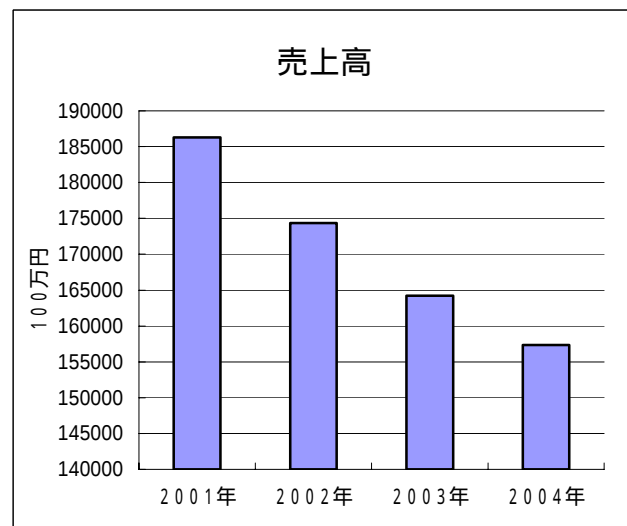
リサーチセンターはこのほど「尾州産地04年度業績概略」をまとめた。特徴点は 業種、企業間の収益格差は拡大しているが、全体の収益には改善の兆しがみられる 卸、婦人服地、紳士服地、インテリア、ニットの5業種が小幅ながら増収に転じた、というもの。しかしながら、05年1-3月は前年同期比で婦人服地がマイナス14.6%、紳士服地が同3.6%、ニットが同12.7%となっており、婦人の複合ものとニットの落ち込みが目立つという。

利益、赤字を上回る

■ 産地全体 ■

主要企業221社（アパレル、紡績、その他を除く）の業績は売上高1573億7100万円で前年比は4.2%減となったが、利益は22.0%増の25億8400万円と大幅に改善した。利益高から赤字額を差し引いた額を売上高で割った純利益は、6億円の営業外収益が入っているものの、0.5%を計上した。

集計221社の内、33%にあたる74社が赤字経営だったが、一方で55社が増収決算を計上し、「すべての業種で二極化が進んでいる」ことが伺われる。業種別では紳士、ニット、燃糸の業績に厳しいものがあり、実質ベースで採算割れの状態が続いている。



減収ながら増益

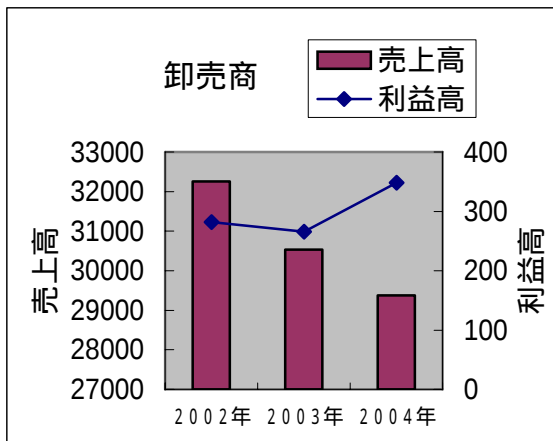
■ 卸商 ■

卸商29社の合計売上高は293億7900万円で、前年比4%減となったが、利益高は3億4800万円で、同31%の大幅増益となった。しかし、赤字額も6600万円あり、純利益率は1.0%となった。

しかし、服地卸し専門業者の業況、業況見通しは厳しく、転業・廃業が続いており、「OEMや素材の開発輸入に活路を見出す業者は

総じて健闘している」という。扱い品の内訳は婦人服地 70% (ニットを含む)、紳士服地 15%、製品 15% で、過去数年間は製品 (OEMを含む) が増加し、主力の婦人服地でも「他産地物の割合が増えている」という。

なお、卸売全体の業績ピークは 1990 年 (企業数が 73 年の 163 社) で、企業数 124 社、売上 1340 億円であった。

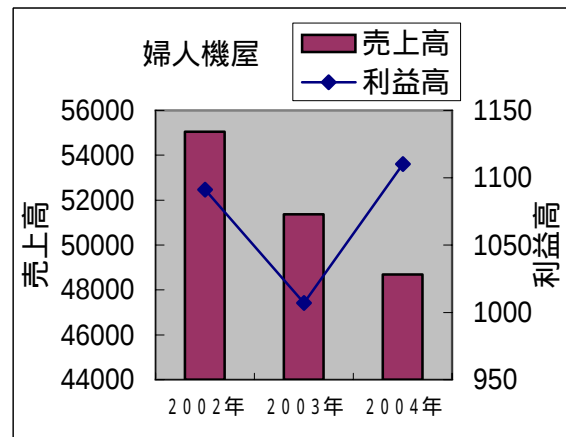


利益は大幅に改善

■ 婦人物 ■

婦人機屋 70 社の 04 年度売上高は 486 億 8200 万円で、前年比 5.2% 減となったが、利益高は 10.2% 増の 11 億 1000 万円となった。しかし、赤字額が 6 億 6000 万円あり、純利益率は 0.9% にとどまった。04 年度は「10 月までは堅調に推移したが、暖冬の影響と 05 年の春夏物の受注減から生産はさらに落ち込んだ」という。

なおピークは 1988 年の企業数 198 社、売上高 1819 億円、利益 94 億円だったが、91 年以降下方に転じ、95 年以降は連続して減収減益を余儀なくされた。



■ 紳士機屋 ■

紳士機屋 46 社の 2004 年度売上高は 318 億 3100 万円で、前年比 4.5% 減となったが、利益は 4 億 8200 万円で 53.5% の大幅増益となった。ただし、この利益の中には 1 億 5000 万円の営業外収益が含まれており、実態は厳しい。

なおピークは 1989 年の企業数 122 社、売上高 1457 億円、利益 63 億円であった。

